

I 文(文章)で解答する設問の答案については、次のA項の加点要素の合計から次のB項・C項の減点要素の合計を引いた得点をその設問の得点とします。ただし最低点は0点としマイナスの得点はつけません。

A

- a 以下の採点基準では、模範解答をいくつかの要素に分割し加点要素とします。答案中にその加点要素に相当する部分があれば、その加点要素に配点された得点を与えます。
- b ある加点要素は、その加点要素に配点された得点か0点で採点することを原則とします。たとえば5点配点された加点要素であれば5点か0点で採点することを原則とします。ただし、その加点要素中の部分点を認める場合もあります。その場合それぞれの採点基準の中に明記されています。
- c ある要素に加点するか否かが、他の要素と無関係に決まる場合と、他の要素との関係で決まる場合があります。前者の場合は、その要素を単独採点(独立採点)すると言いその旨必ず明記されています。後者の場合は、他の要素との関係について以下の採点基準で具体的に指示されています。
- d 解答通りという条件がある場合はいかなる部分点も認めません。

B

- a 答案中に大きな誤読と判定される内容(語句)などがある場合は、その内容(語句)を減点要素として示されている場合もあります。
- b 加点要素でも減点要素でもない部分もあります。その部分は加点も減点もしません。

C

次に該当するものは、答案の形式上の不備として、一箇所につき1点の減点要素とします。

- a 誤字。漢字などの文字の明らかな誤りは誤字とします。
- b 脱字。
- c 文末の句点の脱落。
- d ※字数指定のない場合、句点の脱落は誤字とし1点の減点とします。
※字数指定のない場合、句点の脱落は誤字とし1点の減点とします。
- e 不適切な文末処理。設問の問い方に対応していない形で答案の文末を結んでいない場合は、適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備による減点要素とします。たとえば「…とはどういうことか?」という問いに体言で結んでいないものなどは適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備とします。また、理由が問われているのに、「から」「ので」などで結んでいないものなども適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備と見ます。

※ただし、「ことである」などの表現も「こと」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。また、「からである。」などの表現も「から」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。また文末の表現を問わない場合もありますが、その場合はその都度明記されています。

2 日本語の表現として不適切なものは程度に応じて減点します。

3 次の各項に該当するものは、部分点の要素があっても、その設問の得点を0点とします。

- a 答案が解答欄の欄外にはみ出しているもの。
- b 一行の解答欄に二行以上書いた場合もその設問の得点を0点とします。
- c 字数指定のある設問で、字数をオーバーしたもの。
- d 答案の文章が最後まで完結していないもの。

4 古文あるいは漢文の訳を記述する設問の場合も以上に準じますが、文末の句点や文末の処理あるいは答案の完結にこだわらなくともよい場合はその都度明記されています。

▼解答・配点（50点）

問一 (1) お花見 (2) 音楽 [5点×2]

問二 何か、自分（…心地） [5点]

問三 あたりが刻々と墨一色の暗さに移る微妙な時、遠く川がつづく限り、幽鬼めいた蛍の火が、幾筋とない線を引いて両側から入れ乱れて点滅していた情景。（69字） [9点]

A あたりが刻々と墨一色の暗さに移る微妙な時、（2点）

① 「真の間になる寸刻前」も可。2点。

② 「まだもやもと近くの草の揺れ動くけはいが視覚に感じられる時」の部分を用いた場合、1点とする。但し、「視覚に感じられる」がない場合はA②については0点。

B 遠く川がつづく限り、（2点）

① 「見渡す限り、ひとすじの川の縁に沿うて、どこまでもどこまでも」の部分を用いても可。2点。

② 「遠く」「どこまでも」がなかった場合は1点。

C 幽鬼めいた蛍の火が、（3点）

① 単に「蛍の火」だけでは2点とする。

D 幾筋とない線を引いて両側から入れ乱れて点滅していた情景。（2点）

① 「幾筋とない線を引いて」で1点。

② 「両側から入り乱れて点滅していた」で1点。「両岸から飛び交わすのが見えた」でも1点。「両側から」「両岸から」が無かった場合、②については0点。

※ 制限字数の半分以上書かなかった場合は無得点とする。

※ 「から。」「や」「こと。」「のように、設問要求に正確に答えていない場合、文末不備として1点減点。

※ 句点を付けていないものも1点減点。

※ 誤字は1点減。

問四 □

[4点]

問五 幸子が、雪子の見合いのためにせっかくいろいろ世話を焼いているのに、当人の気楽そうな軒を聞いていると、翌日の会見にそれほど関心を持っているように思えないから。(78字) [8点]

A 幸子が、雪子の見合いのためにせっかくいろいろ世話を焼いているのに。(3点)

① 「幸子が、」がなくても可。

② 「雪子のために見合いの段取りをつけているのに」「雪子のためを思い見合いの手配をつけているのに」など、へ雪子の見合いのために動いているくという意の表現があれば、3点。へ雪子のためにくという意のないものは1点減点で2点。

③ 「幸子が紹介役を務めている」のような表現であれば2点。

B 当人の気楽そうな軒を聞いていると、(2点)

① 「気楽そうな」がなく「軒を聞いている」だけでは1点。

C 翌日の会見にそれほど関心を持っているように思えないから。(3点)

① 「緊張しているように思えないから」も可。

② 「思えない」が欠落している場合は2点減で、1点。

※ 制限字数の半分以上書かなかった場合は無得点とする。

※ 「から。」や「こと。」のように、設問要求に正確に答えていない場合、文末不備として1点減点。

※ 句点を付けていないものも1点減点。

※ 誤字は1点減。

問六 ハ・ホ

[5点×2]

問七 ロ・へ

[2点×2]

大問二 問一

基準 配点.. 2点×4

■模範解答 ※解答例通り(漢字書き取り問題)

- 1 如実
- 2 匹敵
- 3 広範(広汎)
- 4 検索

大問二 問二

基準 配点.. 5点

■模範解答 ※解答通り(記号選択問題)

□

大問二 問三

■形式上の不備

- ・文末表現…要素C参照／理由説明の結び「くから」になっている場合は、要素C不可
- ・句点の扱い…1点減点

基準 配点… 9点

■模範解答

A
新聞や雑誌で

B
使われている言葉の質が

C
低下しているという状況。(29字)

■採点方法…各要素単独採点

■字数…三十字以内 十四字以下のものは全体不可(0点)

■要素A 新聞や雑誌で…3点

- ・ここでの「場」が「新聞や雑誌」であることについて説明していないものは、要素A加点数なし

■要素B 使われている言葉の質が…3点

- ・要素Aにおける「言葉の質」について説明していないものは、要素B加点数なし

■要素C 低下しているという状況…3点

- ・傍線部の「劣化」を言い換えていないものは、要素C加点数なし

大問二 問四

■形式上の不備

- ・文末表現…要素C参照／理由説明の結び「くから」になっている場合は、要素D不可
- ・句点の扱い…1点減点

基準 配点… 9点

■模範解答

A
書きことばと話しことばは

B
言語空間において

C
互いに影響を与え合っているということ。(39字)

■採点方法…各要素単独採点

■字数…四十字以内 十九字以下のものは全体不可(0点)

■要素A 書きことばと話しことばは…3点

- ・「何が」を「書きことばと話しことば」と説明していないものは、要素A加点数なし

■要素B 言語空間において…3点

- ・「書きことばと話しことば」が使われる空間を説明していないものは、要素B加点数なし
- ・同意例…日常生活空間で

■要素C 互いに影響を与え合っているということ…3点

- ・『回路』でつながっている「を言い換えていないものは、要素C加点数なし

大問二 問五

基準 配点.. 7点

■模範解答 ※解答通り(記号選択問題)

二

大問二 問六

■形式上の不備

- ・文末表現…要素D参照／理由説明の結び「くから」になっている場合は、要素D不可
- ・句点の扱い…1点減点

基準 配点… 12点

■模範解答

A 「多様であること」とは、区別が曖昧になったニュースとワイドショーが

B どちらも存在すること、

C 「多様性を認める」ことは、ニュースとワイドショーは別のジャンルに属し、

D その違いを理解した上でそれぞれの存在価値を認めるということである。(114字)

■採点方法…各要素単独採点

■字数…百二十字以内 五十九字以下のものは全体不可(0点)

■要素A 「多様であること」とは、**区別が曖昧になったニュースとワイドショーが…3点**
・「多様であること」として、「ニュース」と「ワイドショー」の「区別が曖昧」であるという説明をしていないものは、要素A加点数なし

■要素B **どちらも存在すること…3点**

・要素Aの二つが「存在する」という説明をしていないものは、要素B加点数なし

■要素C 「多様性を認める」ことは、**ニュースとワイドショーは別のジャンルに属し…3点**

・「多様性を認めること」として、「ニュース」と「ワイドショー」が「別」であるという説明をしていないものは、要素C加点数なし

■要素D **その違いを理解した上でそれぞれの存在価値を認めるということである…3点**

・要素Cの二つの「それぞれの価値を認める」という説明をしていないものは、要素D加点数なし

★2022年度 第3回 全国有名国公私大模試

三 (古文)『十六夜日記』 採点基準 ※50点

問一 甲 「暁」の読みを、ひらがな、現代仮名遣いで記せ。 【1点】

〔正解〕 あかつき

〔ポイント〕

【1点】 ※「あかとき」でもよしとする。「あかつき・あかとき」以外は×。

問一 乙 「三位」の読みを、ひらがな、現代仮名遣いで記せ。ただし、「さんい」以外の読みを答えよ。

【1点】

〔正解〕 さんみ

〔ポイント〕

【1点】 ※「さんみ」以外は×。「さんい」は×。

問一 丙 「手習」の読みを、ひらがな、現代仮名遣いで記せ。 【1点】

〔正解〕 てならい

〔ポイント〕

【1点】 ※「てならい」以外は×。「てならひ・てすさび」等は×。

問二 二重傍線部①～⑤の語の中から、動詞を一つ選び、記号で答えよ。 【3点】

[正解] ②

[ポイント]

【2点】※「②」以外は×。

問三 a 空欄に入る語句として最も適当なものを、一つ選び、記号で答えよ。 【3点】

[正解] イ

[ポイント]

【3点】※「イ」以外は×。

問三 b 空欄に入る語として最も適当なものを、一つ選び、記号で答えよ。 【3点】

[正解] ホ

[ポイント]

【3点】※「ホ」以外は×。

問三 c 空欄に入る語として最も適当なものを、一つ選び、記号で答えよ。 【3点】

[正解] ロ

[ポイント]

【3点】※「ロ」以外は×。

問四 (一) 傍線部を現代語訳せよ。 【4点】

※ 基本的に、全体的な意味のつながりに不具合があっても、各部分の訳があてれば、その部分の点は与えることとします。

〔傍線部〕

A | 文も B | かき C 2 | あへ

(B · C) | ず

〔解答例〕

A | 手紙も C 2 | 十分に B | 書き (C) | きれ (B · C) | ない

〔採点方法〕

各要素単独採点。ただし、条件が書かれている場合は、それに従って下さい。

〔字数〕

指定なし。

〔ポイント〕

A 【1点】 文も ↓ 手紙も

※ 「手紙」の意があればよい。

B 【1点】 かき↓ ↓ 書き↓ ない

※ 「書かない・書けない」の意があればよい。

C 【2点】 あへ↓ ↓ 十分に↓ きれない

※ Bが0点の場合は得点できない。ただし、誤字等で0点になっている場合は得点できる。

※ 「十分に↓ しない・↓ きれない・↓ できぬ・↓ あげない」等の意があればよい。

問四 (2) 傍線部を現代語訳せよ。 【4点】

※基本的に、全体的な意味のつながりに不具合があっても、各部分の訳があてれば、その部分の点は与えることとします。

〔傍線部〕

A2 行ひ B1 ゐたる C1 人なり

〔解答例〕

A2 仏道修行し B1 ている C1 人である

〔採点方法〕 各要素単独採点。ただし、条件が書かれている場合は、それに従って下さい。
〔字数〕 指定なし。

〔ポイント〕

A 【2点】 行ひ ↓ 仏道修行し

※「勤行し・仏道に帰依し」等でもよい。「し」は「行う・励む」等でもよい。

※「仏道・仏教」の意がない「修行」は【1点】。

B 【1点】 ゐたる ↓ っている

※Aが0点の場合は得点できない。ただし、誤字等で0点になっている場合は得点できる。

※「った」でもよしとする。

C 【1点】 人なり ↓ 人である

※「人だ・人です」でもよい。

問四 (3) 傍線部を現代語訳せよ。 【3点】

【傍線部】 なかなか

【解答例】 A3 かって

【採点方法】 各要素単独採点。 【字数】 指定なし。

【ポイント】

A【3点】 なかなか ↓ かって

※「なまじ・なまじっか」等でもよい。「中途半端に」は×。

問四 (4) 傍線部を現代語訳せよ。 【3点】

【傍線部】 そこはかとなき

【解答例】 A3 とりとめもない

【採点方法】 各要素単独採点。 【字数】 指定なし。

【ポイント】

A【3点】 そこはかとなき ↓ とりとめもない

※「どうということもない・たいしたこともない・何ということもない・とるに足ら(足り)ない」等でもよい。

※「どうしようもない・どうにもならない」等は【1点】。

問五 A 「あま」は掛詞である。何と何の掛詞か。それぞれ漢字を用いて二字以内で記せ。【各一点・計2点】

〔正解〕 A 尼 ・ B 海人（海士・蟹） 〔順不同〕

〔採点方法〕 各要素単独採点。 〔字数〕（漢字を用いて）二字以内。

〔ポイント〕

※ A・Bは順不同。

A【一点】尼

※「尼」以外は×。「尼上・天・雨・あま」は×。

B【一点】海人（海士・蟹）

※「海人・海士・蟹」以外は×。「海女・天・雨・あま」は×。

問五 B 「よる」は掛詞である。何と何の掛詞か。それぞれ漢字を用いて二字以内で記せ。【各一点・計2点】

〔正解〕 A 夜 ・ B 寄る 〔順不同〕

〔採点方法〕 各要素単独採点。 〔字数〕（漢字を用いて）二字以内。

〔ポイント〕

※ A・Bは順不同。

A【一点】夜

※「夜」以外は×。

B【一点】寄る

※「夜」以外は×。「寄」は×。「よる」は×。

問六 傍線部の和歌の大意を、五〇字以内で述べよ。 【6点】

〔傍線部の和歌〕 玉章を見るも涙のかかるかな磯越す風は聞く心地して

〔和歌の訳〕 (あなた「Ⅱ作者」の)御手紙を見るにつけても(手紙や袖に)涙が降りかかりますよ。(あなたのいる場所で)磯を越えて吹く風の音が(ここ「Ⅱ都」まで)聞こえるような気持ちがして(あなたの苦勞が思いやられて)。

〔解答例〕 A2 作者からの手紙を見ると、 B2 磯を越えて吹いて来る激しい風の音が聞こえてくるよ

うで、 C2 涙が落ちるよ。(46字)

〔採点方法〕 各要素単独採点。 〔字数〕 五〇字以内。

〔ポイント〕

A 【2点】 作者の手紙を見ると、

※「手紙を見ると・手紙を読むと」の意があれば【1点】。「玉章」のままは×。

※右の意がある上で「手紙」が「作者(妹・筆者・阿仏尼)」のものとなる説明があれば【2点】。

B 【2点】 磯を越えて吹いて来る激しい風の音が聞こえてくるようで、

※1 「風の音が聞こえる気がして」の意があればよい。「磯を越える・波・激しい」等の意の有無は不問。

2 1の意がなくても「厳しい環境が思われて・鎌倉での苦勞が思いやられて」等の意としてとらえられる内容があればよしとする。

※1や2の意があっても、「涙が落ちる(泣く)」の原因として書かれていない場合は【マイナス1点】。

C 【2点】 涙が落ちるよ。

※「涙が流れる(出る)」、「または「泣く」の意があればよい。

※右の意がなくても「作者を心配する(同情する・可哀想に思う)・作者を思って悲しむ(寂しがる)」等の意があればよしとする。

ただし、「作者を」の意が明らかでない「心配する(同情する・可哀想に思う)・悲しむ(寂しがる)」等は【1点】。

「作者」は「妹・筆者・阿仏尼」でもよい。

問七 傍線部「……」とあるが、ここには誰のどのような心情が表れているか。説明せよ。【8点】

〔傍線部〕 霞晴れぬる心地

〔解答例〕 **A2** 権中納言の君の、**B3** 日頃、旅先の作者を心配していたが、**C3** 作者からの手紙を受

け取ったことで安心した、という心情。

〔採点方法〕 各要素単独採点。ただし、条件が書かれている場合は、それに従って下さい。

〔字数〕 字数指定なし。

〔ポイント〕

A【2点】権中納言の君の、

※ **C**が0点の場合は得点できない。ただし、誤字等で0点になっている場合は得点できる。

※ 娘の・義理の娘の」は【1点】。文意が通っていれば「の」は「が」等でもよい。

B【3点】日頃、旅先の作者を心配していたが、

※ **C**が0点の場合は得点できない。ただし、誤字等で0点になっている場合は得点できる。

※ 「日頃、旅先の作者を心配していた」の意があればよい。

※ 「心配し」は「気がかりに思い・気にかげ・案じ・思いやり」等でもよい。

※ 「心もとない・不安だ・つらい・悲しい・寂しい」等は【マイナス点】。

※ 「ぼんやりし」は×。

※ 「日頃」「作者（母・母親・義母）」がない場合はそれぞれ【マイナス点】。

※ 「旅先の」の有無は不問。

C【3点】作者からの手紙を受け取ったことで安心した、という心情。

※ 「作者の手紙を受け取って（見て）安心した」の意があればよい。

※ 「安心した」は「安堵した・気分が晴れた・元気になった・憂いがなくなった」等でもよい。

※ 「作者からの・作者の」がない、「手紙を受け取って（見て）安心した」は【2点】。

※ 「作者の手紙を受け取って（見て）」の意がないが、「安心した」の意がある場合は【1点】。

問八 本文は、阿仏尼によって書かれた『十六夜日記』の一節であるが、日記文学の成立順として正しいものを一つ選び、記号で答えよ。 【3点】

〔正解〕 ハ

〔ポイント〕

【2点】 ※「ハ」以外は×。

四（漢文）採点基準（合計＝50点）

問一 各2点 〓8点

解答

a 〓と b 〓あたわざれば（あたわずんば）

c 〓たちどころに

d 〓のみ

採点基準

*歴史的仮名遣いは減点。

例 b 「あたはざれば」「あたはずんば」は1点。

問二 6点 完答

解答

甲 〓楚 乙 〓趙 丙 〓秦

甲 〓趙 乙 〓楚 丙 〓秦

問三 6点×2=12点

解答例

B a 1点 b 2点
その他には、 連れて行くのに、
c 2点 d 1点
みわわしい者が おらず、

採点基準

- * a 「その他」は「残りの者」なども可。
- * b 「同盟の交渉に」などなくとも可。
- * c はbと一緒に「行くべき者」なども可。
- * c は適当や可能の意味が表現させれいれば可。
- * d は連用形で中止していないで、言い切りになっても可。

解答例

a 2点 b 1点 c 1点 d 1点 e 2点
c どうか ご主人様、直ちに 私を 同行の人員に加えてから
f 1点
出発なさって ください。

採点基準

- * 敬語表現は不問。
- * a 願望表現に2点。
- * b 「ご主人様」は「平原君」「勝」も可。
- * c 「直ちに」は「すぐに」なども可。
- * d 「私を」は「自分」「毛遂」も可。
- * e 「連れて」も可。
- * e 「数に加えて」は1点。「人員」「頭数」などが必要。

問四 6点

a 1点

b 2点

c 3点

解答

きりの なうちゆうに きるがごとし

採点基準

* 現代仮名遣いになっているもの…減点各1点。「のう」「ちゆう」「おる」

* a「きり」は「すい」も可。

* b「ちゆう」の「ゆ」は「ちゆう」も可。

問五

3 × 2 = 6点

【解答通り】

解答

X = 0

Y = 8

問六 10点

a 4点

解答例

他の人と同じ場で競わせてくれたならば、

b 4点

他の人よりも格別に秀でていることを

c 2点

証明してみせるといざうこと。

採点基準

* a「競う」は「議論する」「戦う」「勝負をする」なども可。

* aは広く、「採用される」意があれば2点とする。

* aは「交渉に連れて行く」「身近に置く」など具体的なら1点とする。

* b「他の人」は「他の食客」「他の随行員」「他の門下の者」も可。

* b「他の人よりも」はなくても可。

* bは、ずば抜けたものである点が表現されていれば良しとする。

* b「活躍」「役に立つ」などは2点。

* bただ「良い」だけの場合は1点。

* c「証明する」は「示す」「現わす」なども可。

以上